

V. 特記事項

1. 主体的な学修を支援するセルフアクセス学修センター

本学の「SALC」では、使用言語を英語のみとするルールのもと、「BECC」の英語ネイティブ教員とのコミュニケーションだけでなく、学生同士やスタッフとのやり取りを英語で行うことによって英語の運用能力を高めている。また、利用学生の学修支援のために学生スタッフ（以下、「SALCer」という。）が常駐している。「SALCer」は、職員が開催する研修会に参加してより良い学修環境にするために話し合ったり、「SALC」で開催するイベントを自分たちで企画・実行したりすることによって、自律した学修者への成長へとつなげている。

平成 30(2018)年度は、「SALCer」が 2 つのプロジェクトに取り組んだ。ひとつはクリスマスのキャンペーン及びランチタイムイベントの企画と運営で、もう一つは、より利用しやすい「SALC」にするための現状分析と改善案の提案である。後者の取組みは本学の教育・研究活動支援プログラム助成金事業の交付を受け、「SALCer」のうち代表者 4 人が「SALC」の教職員とともに活動し、その成果として日本自律学習学会 2018 年年次大会にて分析結果と改善案についてポスター発表を行った。このように、教員、職員、学生スタッフが協働しきめ細やかな学生への自律学修支援を行っている。

2. 主体的な学修を通じた逞しい実践力のある教員養成

本学では、自律性と協働力を備えた逞しい実践力のある教員の養成をめざし、計画的・系統的な取組みを進めている。

特色ある取組みとして、大学 2 年次には学校現場における一週間の「観察実習」を行う。観察にあたっては、学生がグループ毎にテーマを設定し、観察を行う。また、その結果については学生の運営による学修会で交流・協議する。また、実習終了後は各自報告書を作成し、教育実習報告会を行う。報告書の印刷・製本、報告会の企画・運営等もすべて学生が行う。また、2 年次には 3 泊 4 日の「野外活動」を行う。十数人の学生リーダーは事前にリーダー研修を行い、活動プログラムの作成、現場での各活動の運営等を行う。

大学 3 年次には、「モギモギ」を行う。これは教育実習事前指導において、模擬授業をすする前に学生同士で予行演習を行い、授業までに自主的に改善を図るものである。その後、授業において模擬授業を行い、ルーブリックに基づいて自己評価、教員による評価を行い、次の模擬授業、教育実習の目標を明確にしていく。このような取組みを通して、教員としての専門性を高めるとともに、自律性と協働力を育てている。

これらが基盤となって大学 4 年次の「教員採用試験対策セミナー」が行われる。同セミナーは、学生が指導を受けたい内容を取りまとめ、教員に講師を依頼し、教員はそれに応える形で行われる。さらに、学生は自治体毎の学修会「県人会」を立ち上げて、自分にあった学修を行っていく。これらの取組みは『顔晴り(がんばり)』という冊子にまとめられ、教員採用試験報告会「顔晴りの会」において後輩へ引き継がれていく。本学では、こうした教員採用試験に向けた自主的な学修体制が実現されている。